

* * * *

東アジアに特産するクサアジサイ属について行った観察をまとめ、さらにこれまでの知見をも加えて系統を考察した。その結果をもとに分類体系の校訂を行った。

クサアジサイでは幼茎は伸長し葉は対生する。幼茎基部と胚軸は肥厚し地中に残る。2年目は通常前年の葉腋のひとつだけから花茎をだす。葉の配列は最初の数対を除いて互生に変わる。葯の特異的なかたちは葯隔の頂端が肥大するためにできることが判った。花粉は蓋膜に頭状の Columella を散生する。これはいまのところアジサイ属にはみられない。種皮には明瞭な隆条があり、規則的に結合して長方形の網目をつくるが、アジサイ属では隆条は結合しない。染色体数は $2n=30$ (若林三千男博士による) で、アジサイ属やギンバイソウ属にこの数は見い出されていない。

系統解析に有効な形質は雌蕊の長さや装飾花の有無とその萼片数と考えられ、これらの形質状態の分布を調べ、系統について考察を試みた。

□Dyer, A. F. & J. G. Duckett (ed.): **The experimental biology of bryophytes**

i-xvi+281 pp. 1984. Academic Press, London. \$68.50. 近年、蘚苔類について種々な分野で実験的な研究が行われており、特に組織培養やこれにともなう生理学的な現象面での研究成果には目覚ましいものがある。本書はこうした蘚苔類に対する実験的アプローチを集大成したもので、P. W. Richards が蘚苔類の形態、生活史、生態等に関する特性を述べた "Introduction" に続き、10篇の論文が集められている。ここに取りまとめられた興味深い成果は、日本ではまだほとんど研究されていない分野だけに、今後の研究の指針ともなろう。例えば、M. Lal: The culture of bryophytes including apogamy, apospory, parthenogenesis and protoplasts (蘚苔類の培養と無配生殖、無孢子生殖、単為生殖) とか、D. J. Cove & N. W. Ashton: The hormonal regulation of gametophytic development in bryophytes (蘚苔類の生長とホルモン)、N. Valanne: Photosynthesis and photosynthetic products in mosses (蘚類の光合成と光合成産物) などがある。本書を通読すると、蘚苔類という植物がこのような実験的研究の素材としていかに重要なものであるかが、改めてよくわかるのである。(井上 浩)

□Schultze-Motel, X. (ed.): **Advances in bryology, vol. 2** 229 pp. 1984. J. Cramer. DM 200.

本書は国際蘚苔類学会 (IAB) が企画し、いろいろな分野での蘚苔類研究を review するものである。今回は Mitosis in bryophytes (M. W. Steer), Moose als Bioindikatoren (H. Muhle), Desiccation and ultrastructure in bryophytes (M. J. Oliver & J. D. Bewley), Applied bryology (安藤久次・松尾昭彦) の4篇が収められている。蘚苔類学の現状を把握するために好都合な出版物である。(井上 浩)